

出題 蜚雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の言葉のうち、将棋がもととなって生まれた言葉をすべて選びなさい。

王手 手駒 布石 成金

## 将棋から生まれた言葉

### 豆知識 雑学コラム

将棋はもともと中国にあったゲームを、もとに平安時代頃に始まった遊びで、二人が盤に向かい合って座り、盤の上の駒を動かして相手の王の駒(王将、玉将)を取れば勝ちというルールのボードゲームですね。最近では、藤井聡太四冠の活躍もあり注目度が上がっています。日本語にはこの将棋がもとになって生まれた言葉がたくさんあります。今回は将

棋から生まれた日本語を見ていきましょう。まずは「王手」です。これは大丈夫ですよね。王手は将棋の中で次の一手で相手の王の駒(王将、玉将)が取れる状態のことですね。そこから転じて、勝利まであと二歩のところを「王手」というようになりまし

取った相手の駒を自分の駒として使うことができず。この自分の取った相手の駒のことを「手駒」または「持ち駒」といいます。このことから、自分の配下の部下のことを「手駒」と呼ぶようになりました。これも「駒」が将棋用語だと知っていれば、将棋から生まれた言葉だとすぐに気づくことができますね。

最後は「成金」です。将棋では、相手の陣地まで駒が攻め入ると、より強い駒と同じ働きをする駒になることができます。このとき、「金」と同じ働きができるようになることを「成金」といい、そこから転じて、僅かなうちに大金持ちになってしまった人を「成金」とよぶようになりまし

た。この他にも相手に高圧的な態度を取る「高飛車」なども将棋から生まれた言葉です。

将棋生まれの言葉には、日常であまり使わないですが、スポーツで主力選手が欠けるなど、中心となる戦力を欠いた状態で勝負することを「飛車角落ち」というなど少し通な言葉もあります。こういう言葉も使いこなせるとかっこいいですね。

## 【解答】

王手、手駒、布石、成金